公務員試験講座 合格者報告会
試験対策をアドバイス

エクステンションセンターが開講する公務員試験講座の受講生で、今年度の採用試験に合格した4年次生が体験談を伝える「合格者報告会」が10月8日、生田キャンパスで行われた。国家総合職、国家一般職、国税専門官、東京都特別区や警視庁行政職員などの試験を突破した16人が、3年次生約150人に向けて合格のポイントを話した。

報告会は毎年行われており、今年度は3年ぶりに対面形式で実施された。多くの合格者が「この会で先輩の話を聞き、試験本番に向けてスイッチが入った」と影響の大きさを語る伝統あるイベントだ。

4年次生は、実際に使用した参考書やノートなどを公開し、勉強方法や試験対策を話した。「論文対策は何度も添削を受けることが大切で、添削されたことを次回に反映させよう」「面接に向けて、受験する自治体の情報は細かな部分まで把握した方がいい」など、経験を踏まえた具体的なアドバイスを送った。

3年次生からはさまざまな質問が寄せられた。「1日にどのくらい勉強したか？」との問いに、ある4年次生は「1日1時間でもかまわないので毎日継続し、まずは勉強の習慣を身につけた。3年次の秋ごろから勉強時間を増やしていった」と答えた。

勉強に使ったノートを見せながら体験を話す4年次生

「専大玉名」から「専大熊本」に
23年4月から校名変更

専修大学玉名高等学校（熊本県玉名市、渡邉正隆校長）は、2023年4月1日から「専修大学熊本玉名高等学校」に校名を変更する。略称は「専大熊本」とする。

校名に県名の「熊本」を加え、今後ますます進むグローバル化に対応するとともに、西日本唯一の専修大学の付属高等学校として地域に根差した学校づくりを目指していく。

緑鳳学会
第31回大会

本学出身の研究者により構成されている専修大学緑鳳学会の大会が10月22日、神田キャンパスで開催された。対面形式での実施は3年ぶり。

第1部では大学院法学研究科博士後期課程の学生が研究発表を行った。第2部では「超高齢化社会における諸問題――持続可能な未来社会はどうあるべきか――」を統一テーマに、学内外の研究者5人が登壇。異なる研究分野から報告とパネルディスカッションが展開され、活発に意見を交わした。

総会では佐々木重人学長があいさつし、「社会課題解決の糸口になる興味深い内容だ」と述べた。

ベトナム社会科学院
副院長ら来学
佐々木学長と懇談

握手を交わす佐々木学長（左）とタイン副院長

本学と国際交流協定を結んでいるベトナム社会科学院（VASS）のダン・スアン・タイン副院長ら5人が10月18日、神田キャンパスを訪れ、佐々木重人学長らと会談した。

VASSはベトナム政府直属の同国最大の学術研究機関。本学とは2017年に協定を締結しているほか、本学社会知性開発研究センターがVASS所属研究機関と組織間協定を結んでおり、共同研究や国際カンファレンスの開催、研究者同士の交流など、緊密な研究活動を続けている。今回は、本学社会科学研究所（所長・大矢根淳人間科学部教授）とVASS東北アジア研究所との組織間協定の再締結や、日越外交関係樹立50周年事業に向けた国際シンポジウムの実施について話し合うために来学した。

佐々木学長は「VASSと本学は長年交流を温めながら大きな研究プロジェクトを進めてきた。日本は実りの秋を迎えているが、VASSと本学も大きな実りを得られるよう、これからも盛んな研究活動が続いていくことを期待する」と歓迎。タイン副院長は「これまでの活動に感謝すると同時に、これからも更に協力を深めていきたい」と応えた。

就職だより

〈3年次生へ〉就職活動本番へ向けた準備を進めているかと思いますが、さまざまな角度からものごとを見ることが重要です。現在開講している就職活動準備講座を受講することで、自身の準備の進捗を確認することもできます。必ず受講してください。

また、11月21日（月）からはオンライン企業研究セミナーがスタートします。本学学生の採用意欲が高い企業のみが参加しますので、多くの企業の話を聞いて自身の可能性を広げてください。

オンライン企業研究セミナーや支援プログラムの詳細は、「in Campus」にて確認してください。

〈4年次生へ〉12月1日（木）にサテライトキャンパスで企業説明会を開催します。15社程度が参加する対面の説明会になります。時間など詳細は「in Campus」にて確認してください。申し込み不要ですので、この機会をぜひ活用してください。

また、進路決定者は、就職支援システム「S-net」から「進路届」を必ず提出してください。

専修人の新しい本

身近な異文化コミュニケーション
――こころにユニバーサルデザインを――

上村妙子 著

「異文化コミュニケーション」はマクロな視点とミクロな視点から捉えることができます。通常、私たちは「異文化コミュニケーション」と聞くと、「日米異文化コミュニケーション」など日本文化とアメリカ文化というように、二つの国の文化を対象としたマクロな視点からの研究を思い浮かべます。一方、一つの文化も、ジェンダー、年齢、職業、出身地など「異文化性」を持つ多様な集団から構成されています。

本書では、ミクロな視点に立ち、日本の中に見られる多様な属性を持つ人々を取り上げています。具体的には、マイノリティーと考えられている女性、LGBT、在留外国人等の人々について、こうした人々の潜在的な特性や社会の取り組みを論じています。

最後に、私たちがそれぞれの違いを認め、より生きやすくなるためのヒントとして「ユニバーサルデザイン」の考え方を紹介しています。（パレード・税込み990円）

著者（かみむら・たえこ）文学部教授。専門は応用言語学、英語教育。

健康フラッシュ
体によい食べ物は何ですか？

体によい食べ物は何ですか？とよく聞かれます。テレビでも「○○を毎日食べて病気知らず！」といった報道がしばしば見られますし、ワイドショーで紹介された食品を消費者が買い求めて、その翌日にはスーパーの棚が空っぽになるというような現象も起こりがちです。

本当に「体によい」、つまり、動脈硬化による病気やがんにかかるリスクを減らし、長生きできる食べ物はあるのでしょうか？

体によいとの科学的根拠が確立されている食品として、①魚、②野菜と果物（フルーツジュースとじゃがいもを除く）、③精製されていない炭水化物（玄米、全粒粉など）、④オリーブオイル、⑤ナッツ（アーモンド、クルミ、ピーナツなど）があげられます。逆に、体に悪いと言われる食品は、①牛肉や豚肉などの赤肉（特にハムやソーセージ）、②白米などの精製された炭水化物（じゃがいもを含む）、③飽和脂肪酸（ラードやバター、脂身が多い肉に多く含まれている成分）です。また、塩分の取りすぎも体によくありません。

ここで注意したいのは、白米より玄米を選択したほうが良いが、白米を食べてはいけないということではないということです。また、体によいという食品を食べ続ければ健康でいられるわけではありません。例えば、ナッツはカロリーが高いため食べ過ぎればカロリー超過の原因になります。健康な体づくりには、多くの種類の食品をバランスよく食べることがもっとも大切です。

（校医・大石由美子）

SMBC　SMBCグループ
確実にやるのはどこでもできる。
確実に速くやるからこそ「価値」になる。
三井住友銀行

世界が進むチカラになる。
MUFG
三菱UFJ銀行